

# みの～れは住民と行政の橋渡しをする場所



## 四季文化館企画実行委員

いしづか まさひろ  
石塚 政弘 さん

「今後もみの～れ関わるならもう小美玉に住むしかないですね（笑）」と語る石塚さん

みの～れと共に生活するスタイル  
Minole Life  
のすすめ  
No.173

日差しが柔らかくなり春の扉が少しずつ開き始めたようです。白梅や紅梅の花が咲きだし甘い香りを漂わせていますね。ふきのとうを見つけました。ふきのつぼみの部分で天ぷらや落味噌がおすすすめでほろ苦い味は春の味だそうです。まだまだ寒い日が続きますが風邪などひきませぬように。今回は四季文化館企画実行委員会のメンバーで坂東市にお住まいの石塚政弘さん取材します。

石塚さんに企画実行委員会のメンバーになったきっかけを聞いてみました。「同じ企画実行委員会の中根太暉さんと仕事で一緒にいることがあり、『こういうのあるけどどう?』と声をかけてもらいました。みの～れは前から知っていたので、せっかくなので機会だから引き受けました。みの～れと実際に関わるようになって思ったことは、職場の上から聞いていたとおり市民協働が進んでいてびっくりしました。すごいなと思ったところは、みの～れは休館日を決めるのも企画実行委員会で承認するというところ。そういうところまで企画実行委員会で決めるというのが珍しいというか徹底しているんだなと思います」と話します。

もしく語ってくれました。石塚さんは小美玉市と常総市を比べて、「常総市にも公共施設はたくさんあります。ただ、みの～れのように住民が参画して運営までやっていたという施設はないですね。住民が集まって〇〇協議会みたいなものはありますが、大体は高齢の方が集まってくるイメージです。その点、みの～れの企画実行委員会は幅広い年齢層でバラエティ豊かだと思いました。現役で仕事と両立されている方もいて凄いなと思います」と話してくれました。

石塚さんに趣味を聞いてみました。「今はコロナ禍でなかなかできていないのですが、弓道をやっていました。コロナの前は必ず土日やっていました。その代わりに今は、友達に誘われてダーツをやっています。的を狙うというところが弓道と通じるところがあって2年ちょっと毎週のように練習をしています。それから登山も好きで夏場は日帰りで行ける栃木などの高い山に行きます。去年はコロナが一旦落ち着いたときに一泊して富士山にも行ってきました。あと、東北の栗駒山は紅葉がきれいなので毎年行くようにしています」と楽しんで話してくれました。

「最後は石塚さんは「みの～れでイベントを企画するしたら...今はコロナ禍でできないけど、ワイワイにぎやかにお酒を飲みながらみの～れについて語り合うイベントができたらと思います」と話してくれました。」

(藤田佐知子)